第４回 国際標準化対応支援委員会／運営委員会　国際会議出席報告書

資料No.	＜TC40関係＞ 国際会議出席報告書
4-3／TC40-①	TC40/Plenary「電子機器用コンデンサ及び抵抗器」英国／ケンブリッジ国際会議出席報告書 20090908-20090911
4-3／TC40-②	TC40/WG36「電子機器用コンデンサ及び抵抗器」英国／ケンブリッジ国際会議出席報告書 20090908-20090911［申請書未提出会議］
4-3／TC40-③	TC40/WG39「電子機器用コンデンサ及び抵抗器」英国／ケンブリッジ国際会議出席報告書 20090908-20090911
4-3／TC40-④	TC40/Maintenance project C「電子機器用コンデンサ及び抵抗器」英国／ケンブリッジ国際会議出席報告書 20090908-20090911
4-3／TC40-⑤	TC40/Maintenance project R「電子機器用コンデンサ及び抵抗器」英国／ケンブリッジ国際会議出席報告書 20090908-20090911
資料No.	＜SC48B関係＞ 国際会議出席報告書
4-3／SC48B-①	TC48/Plenary「電子機器用機構部品」スウェーデン／シースタ国際会議出席報告書 20090922-20090925
4-3／SC48B-②	SC48B/Plenary「電子機器用コネクタ」スウェーデン／シースタ国際会議出席報告書 20090922-20090925
4-3／SC48B-③	SC48B/ WG3、5、6「電子機器用コネクタ」スウェーデン／シースタ国際会議出席報告書 20090922-20090925
資料 No.	＜SC48D関係＞国際会議出席報告書
4-3／SC48D-①	TC48「コネクタおよび電子機器の機械的構造」スウェーデン／ストックホルム国際会議出席報告書 20090923-20090925
4-3／SC48D-②	SC48D/WG2「19"ラックの機械的構造」スウェーデン／ストックホルム国際会議出席報告書 20090923-20090925
4-3／SC48D-③	SC48D/WG4「19" フロントパネル／サブラック／シャシー／キャビネット／ラック」スウェーデン／ストックホルム国際会議出席報告書 20090923-20090925
4-3／SC48D-④	SC48D/WG5「ヒートマネジメント」スウェーデン／ストックホルム国際会議出席報告書 20090923-20090925
4-3／SC48D-⑤	SC48D/MT6「アウトドアエンクロージャ」スウェーデン／ストックホルム国際会議出席報告書 20090923-20090925
資料 No.	＜TC80関係＞国際会議出席報告書
4-3／TC80-①	TC80「舶用航海および無線通信装置とシステム」 英国/ロンドン国際会議出席報告書　20090907-20090908
資料 No.	＜TC93関係＞国際会議出席報告書
4-3／TC93-①	TC93,WG1,WG2,WG3,WG5,WG6,WG7,JWG11「デザインオートメーション」日本／京都国際会議出席報告書 20090928-20090930
4-3／TC93-②	TC93,WG1,WG2,WG3,WG5,WG6,WG7,JWG11「デザインオートメーション」日本／京都国際会議日本開催経費収支報告書 20090928-20090930
資料 No.	＜TC100関係＞国際会議出席報告書
4-3／TC100-①	TC100/JTC1「AV&マルチメディア機器及びシステム」米国／ゲイザースバーグ国際会議出席報告書 20090901
資料 No.	＜TC100/TA6関係＞国際会議出席報告書
4-3／TC100TA6-①	TC100/TA6「AV&マルチメディア機器及びシステム／AVマルチメディア業務用情報ストレージ」米国／ロザンゼルス国際会議報告書 20091005

資料 No.	＜CISRP 関係＞国際会議出席報告書
4-3／CISRP-①	CISRP SC-I「マルチメディア機器等に関する EMC」フランス／リヨン国際会議出席報告書 20090921-20090923
資料 No.	＜SC31 関係＞国際会議出席報告書
4-3／SC31-①	SC31/WG1「自動認識及びデータ取得技術／データキャリア WG」フランス／トゥールーズ 国際会議出席報告書 20090914-20090915

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC40-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 9 月 30 日

（報告者記載）予算番号：H21TC40①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：青木仁/KOA　報告書作成者氏名：　尾村博幸　（会社名）日本ケミコン

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC40 (半角)
TC40Plenary	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	電子機器用コンデンサ及び抵抗器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	

開　催　期　日	2009 年 9 月 8 日 ～ 2009 年 9 月 11 日	
開　催　場　所	（国名）英国	（都市名）ケンブリッジ
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr.Saarinen	幹事国　オランダ
参　加　国及び 参　加　人　数	7 ヶ国、主な国名 日，独，米，英，オランダ，フィンランド，ベルギー、参加人数（17）	
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○土生正, ○尾村博幸, 青木仁, 池上孝, 和田友英	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

Ｐメンバー国は，インドが O メンバーから昇格し，BE,CN,FI,FR,DE,IT,JP,KR,NL,RU,ES,SE,US,GB,IN の 15 ヶ国になった。

2 年前のヘルシンキ会議から，日米欧における IEC 規格と各国の規格との整合化を含めた対応状況を確認しあった。

EN 規格のコンデンサ部門では，IEC の CDV 文書によるパラレル投票を行っており，整合化が最も進んでいる。日本の場合には，整合化が進んでいるが JIS 化に時間が掛かっている。米国の EIA 規格の場合には、整合化が進んでいない。

WG36 及び WG39 の活動が報告された。WG36（自動実装包装）では，TC101 で発行予定の材料の静電気測定方法の規格案に関連し，ジョイント WG の設置を申し入れることになった。また，WG39（GS 間の整合化）では，MIL-HDBK-217 に相当する故障率に関する事項を導入することに対して，アンケート（40/xxxx/Q）を各国に送付して意見をまとめることになった。適用範囲及び算出式の基になる総試験時間のあり方などが課題になる。

TC40 以外の TC との連携状況の確認があった。日本から TC9（鉄道用）のコンデンサ規格，TC69（ハイブリッド EV 用）のコンデンサ規格及び TC108（機器の安全）のバリスタ及びＰＴＣサーミスタの活動実態を報告した。

日本からの 4 提案（アルミニウム導電性高分子コンデンサ 2 件及びコンデンサ用低 ESL 測定方法 2 件）を含め，PT 及び MT での活動状況の実態の確認と今後の予定スケジュールの確認を行った。上記 4 件は，CDV の段階であるためか各国からのコメントがなかった。寧ろ，次段階へのスケジュールを予定通り進めるように要請があった。

TC40 管轄の制定規格及び開発中の 151 規格に対して逐次次期改正スケジュールの確認及び修正を行った。

SBP の作成においては，WG36 の位置付けが，すべての電子部品の中ではホリゾンタルな位置付けであるとの日本意見がとおり，その案を基に修正することになった。

その他の業務として，ISO 規格の標準数列（R 標準数）のあり方及びその数値の丸め方を検討することになった。

次回会議は，IEC 総会の開催期間中に行うこととなり，米国シアトルが予定されている。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC40-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 9 月 30 日

（報告者記載）予算番号：H21TC40①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：青木仁／KOA㈱　報告書作成者氏名：土生　正　（会社名）（株）村田製作所

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC40 (半角)
TC40/WG36	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	電子機器用コンデンサ及び抵抗器
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 9 月 8 日		
開催場所	（国名）英国	（都市名）Cambridge	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	E. Krever/ｵﾗﾝﾀﾞ	幹事国　ｵﾗﾝﾀﾞ	
参加国及び参加人数	7ヶ国、主な国名 ﾄﾞｲﾂ, ｵﾗﾝﾀﾞ, ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ, 英国, 米国, ﾍﾞﾙｷﾞｰ, 日本、参加人数（16）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 土生正(村田製作所), 和田友英(ﾊﾟﾅｿﾆｯｸｴﾚｸﾄﾛﾆｯｸﾃﾞﾊﾞｲｽ), 尾村博幸(日本ケミコン), 青木仁(KOA), 池上孝(太陽誘電)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. 背景・目的

1)IEC 60286-3（SMD テーピング）の再構築における WD 審議において、日本の主張を反映させる。
2)TC101 の CDV 文書の問題点を共有化し、今後の対応に対する方向付けを行う。

2. 審議結果

1)IEC 60286-3 については、日本から事前に提出した改正ドラフトをベースに審議が行われた。一部各国からのコメントの採用に妥協したものの、W4P1 テープ、プレスキャリアテープ及び W8P1 仕様の追加、ドットシールの追加、ラベル表示に対するドイツ提案の拒絶等、日本として重要な内容は反映できた。今後リーダ（オランダ）が MCR と CD を提出し、次のステップに進むことが合意された。
2)TC101 の CDV 文書（IEC 61340-5-3）の問題点について、日本からプレゼンテーションを行い、問題認識を共有化できた。今後 TC101 と TC40/WG36 とでジョイント WG を設置する方向で調整することが合意された。
3)その他
IEC 60286-4（スティックマガジン）の DC 文書に対して、日本から改正の申し入れを提出していたが、リーダを日本（楢岡氏）でドイツ 2 名、英国 1 名の Expert 登録をして改正を進めることが合意された。
IEC 60286-6(バルクケース)については Re-confirm の提案が承認された。
次回開催は米国シアトルで 10 月に開催する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC40-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 9 月 30 日

（報告者記載）予算番号：H21TC40①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：青木仁／KOA㈱　報告書作成者氏名：池上　孝　（会社名）太陽誘電（株）

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC40 (半角)
TC40/WG39	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称(日本語)	電子機器用コンデンサ及び抵抗器
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 9 月 8 日		
開催場所	（国名）英国	（都市名）Cambridge	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	W. Huck/ﾄﾞｲﾂ	幹事国　ｵﾗﾝﾀﾞ	
参加国及び参加人数	7 ヶ国、主な国名 ﾄﾞｲﾂ，ｵﾗﾝﾀﾞ，ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ，英国，米国，ﾍﾞﾙｷﾞｰ，日本、参加人数（12）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○池上孝（太陽誘電），土生正（村田製作所），尾村博幸（日本ケミコン），青木仁（KOA）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. 背景・目的

WG39（各 GS 間の整合化作業）では、部品規格間での不整合化をなくすため、共通仕様的な観点から品目別通則を見直しし，問題点を共有化し今後のメンテナンスに対する方向付けをする。

2. 審議結果

a)品目別通則(GS)の箇条 4

1)IEC 60068-2-82（Whisker test method）の引用

IEC 60115-1（固定抵抗器の品目別通則）の 4.40 に規定している IEC 60068-2-82 のウイスカ試験方法を IEC 60384-1（固定コンデンサの品目別通則）の次回メンテナンスで新規試験項目として追加する。その際は，規定方法に留意する。

2)腐食試験

当面の導入はないが，顧客と市場のニーズを監視することになった。

3)箇条 4 の再構成

電気的，機械的，環境試験などのような論理的な順序でグルーピングした試験項目の参照表を箇条 4 に追加する。これは，メンテナンス作業時に検討する。

b)Annex Q（品質認証）の再構築

最初はドイツから前回会議で提案されたもので，さらに検討が必要となった。CENELEC TC40XB での対応をチェックする。

c)信頼性情報－IEC 60115-1 での Annex R（故障率水準）の導入

上記と同じくドイツから前回会議で提案されたものであるが，これは個別規格のテーマであるとの見解になった。導入の可否も含めたアンケート調査を行うことになった（コンベナ）。

d)その他将来業務として標準数の推奨シリーズの検討の提案があった。潜在的な改善として検討する。

3. 次回は，米国シアトルで 2010 年 10 月に Plenary 会議と同時開催する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC40-④（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 9 月 30 日

（報告者記載）予算番号：H21TC40①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：青木仁／KOA㈱　報告書作成者氏名：　和田友英　（会社名）パナソニック ED㈱

出席会議名(半角)	区　分		組織番号 (TC/SC/TA)	TC40 (半角)
MT/Capacitors	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他			
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	電子機器用コンデンサ及び抵抗器	
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他			
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催　☒同時開催		
開催期日	2009 年 9 月 10 日			
開催場所	（国名）英国	（都市名）ケンブリッジ		
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr.Saarinen	幹事国　オランダ		
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日, 独, 米, 英, フィンランド, ベルギー、参加人数（9）			
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 土生正, 尾村博幸, 池上孝, ○和田友英			

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

１．背景・目的

キャパシタに関連するメンテナンス審議中の IEC 規格において、日本の意見・主張を反映させる。

２．審議結果

1）IEC60384-2 及び IEC60384-13（フィルムコンデンサ）

MCR 文書が発行されている。メンテナンスリーダ（日本）から、CD 文書を 11 月に提出することで合意した。また、新たにドイツへの Expert 登録の要請及びセクレタリにメール審議のために MCR の word 版の送付を要請することで合意した。

２）IEC60384-14（コンデンサの安全規格）

CC 文書審議が札幌会議で終了せず、残った課題について審議し、2ndCD をメンテナンスリーダ（フィンランド）が提出することで合意した。特にドイツ提案による定格電圧拡大については、耐電圧、耐久性試験等の条件をどのようにすべきかが課題となっていた。一部現状の試験条件を変更することで合意したが、再度検証し必要であれば 2ndCD に対してコメントを提出することとしたい。また、インパルス試験条件を変更する提案に対しては、日本からは反対し変更しないことで合意したが、今後の各国からの意見について注視してゆく必要がある。

３）IEC60384-15（タンタル電解コンデンサ）

MCR 文書が発行されている。ドイツがリーダであるが、CD 文書を提出すること、及び日本を含めて Expert 登録を進めることで合意した。

４）IEC60384-21 及び IEC60384-22（積層磁器コンデンサ）

MCR 文書が発行されており、修正に関する具体的提案は日本からのみである。今回日本提案内容の重要な項目について説明を行い、一部 Editorial な修正意見を反映させてメンテナンスリーダの日本が 10 月に CD 文書を提出することで合意した。

５）IEC60384-26、-26-1（アルミ電解コンデンサ）、IEC62490-1 及び IEC62490-2（低 ESL 測定方法）

CDV 文書が回覧されており、締め切り前の現時点では他国 Expert からのコメントは特に無い。日本から一部 Editorial コメントを提出する意図があることを伝え、承認された。期日通りに、次の審議段階に進めることで合意した。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC40-⑤（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 9 月 30 日

（報告者記載）予算番号：H21TC40①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：青木　仁／KOA㈱　報告書作成者氏名：　青木　仁　（会社名）KOA（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC40 (半角)
TC40/Mentenance project R	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	電子機器用コンデンサ及び抵抗器
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 9 月 10 日		
開催場所	（国名）英国	（都市名）Cambridge	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	K.Saarinen	幹事国　オランダ	
参加国及び参加人数	3 ヶ国、主な国名 ドイツ、英国、日本、参加人数（3）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○青木仁（KOA）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. 背景・目的

1)TC40/Prenaly/WG36/WG39/Mentenance project C との年一回の同時開催である。
2)固定抵抗器関係の IEC 規格制定・改訂審議を行う。

2. 審議結果

1) IEC 60115-8-1:表面実装用固定抵抗器 BDS (40/2019/CD)
1.最新版の IEC 60115-8:SS に品質認証及び品質確認検査の試験計画を規定したので、IEC 60115-8-1:BDS にはこの試験計画をブランクにして記載する。
2.一般事項 a)～g)に箇条書きで記述した要求事項は、EN や JEITA 規格で規定したように一覧表形式で記載する
3.保存条件を規定する。ただし、保存年数はブランクとし、２年を越えた場合には、はんだ付け性を確認する。
4.Mr.Ohe が IEC 60115−8-2:BDS: For professional use の規格原案を作成して NP 提案する。
2) IEC 60115-2:低電力非巻線固定抵抗器 SS (40/2013/CD)
1.各品種別通則の適用範囲を明確にした。望ましくは、各抵抗品種別（炭素皮膜、酸化金属皮膜、金属皮膜）に品種別通則が存在するべきであるが、歴史的な背景から「低電力」「電力形」「精密級」「ネットワーク抵抗器」「表面実装抵抗器」の用途別に集約した品種分けになっている。個別の品種への細分化は、品種別通則の下位規定（BDS, DS）にて行う。IEC 60115-2 で精密級の仕様をカバーするならば、IEC 60115-5 の次回改訂のタイミング（MRD 2013）で廃版を検討する。（-5 で金属箔抵抗器を仕様化する可能性もある。抵抗値許容差±1%～ T.C.R.±1ppm～）
3) IEC/TR 60440:抵抗器の非直線性試験方法 (40/2005/MCR)
1.この規格は、TR（技術レポート）から IS（規格）へ昇格させる。
2.DE4 コメントは、Note として受入れる。(皮膜抵抗器の欠陥スクリーニング手法として公知であるが、主流の厚膜抵抗器では一般的で無い為)
次回国際会議は、米国シアトルで 2010 年 10 月に開催する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／SC48B-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 10 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H21SC48B②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：河合　徹　　報告書作成者氏名：　小島　槇雄　（会社名）MK アソシエイツ

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	TC48 (半角)
TC48	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称(日本語)	電子機器用機構部品
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	

開　催　期　日	2009 年 9 月 25 日 ～ 2009 年 9 月 25 日	
開　催　場　所	（国名）スウェーデン	（都市名）ストックホルム
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	G.Weking	幹事国　アメリカ
参　加　国及び 参　加　人　数	8 ヶ国、主な国名 ｱﾒﾘｶ、ﾄﾞｲﾂ、ｲｷﾞﾘｽ、ﾌﾗﾝｽ、ｲﾀﾘｱ、ｵﾗﾝﾀﾞ、ﾃﾞﾝﾏｰｸ、日本、参加人数（14）	
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○小島槇雄(MK ｱｿｼｴｲﾂ)、佐藤賢一(ﾋﾛｾ電機)、河合徹(日本航空電子)	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

会議の主な話題は次のとおりである

1．テクニカルオフィサーとして 20 年間 TC48 に貢献された Mr. Jacquemart は、業務の都合上 USA 事務所の Mr.Rotti と引き継ぐことになり、今回から Mr. Rotti がテクニカルオフィサーとして参加した。

2．チェアマンから SMB/4022/R によって SMB へ報告した内容が次のとおり披露された。
過去 7 年間で開発した規格は 126 件で、現在は 54 件が審議中である。昨年度は、35 の規格が発行された。
TC48 が開発した Strategic Business Plan(PBP)が全ての TC によってガイダンスとして使用されるよい例として SMB で検討された。

3．48/497/DC により Strategic Business Plan(SBP)に対するコメントが要求された。
DC に対する主な各国のコメントは次のとおりである。
同軸コネクタ及び光ファイバーコネクタは、夫々TC46 及び TC86 で取り扱っているがハイブリッドコネクタではこれらのコネクタを使用しているので取り扱いを如何にするか。自動車に使用するデータ伝送用コネクタ、市場の大きな鉄道及び船舶用のコネクタを適用範囲に入れるか否か。
これらのコメントは、WG で夫々のコネクタがどの TC で取り扱うべきか充分検討し適用範囲で明確にすみわけできるよう記載することにした。

4．Good Working Practice：TC48, SC48B 及び SC48D の WG コンベナー及びプロジェクトリーダーの為のガイダンスとして使用する目的で Annex A Project Teams and Working Groups in TC 48 and it's Sub-committees の案を 48/507/DC として各国へ回覧した。この案には、コンベナー及び PL の役割、PT 及び WG の作業などが記載されているが各国からはエディトリアルコメントのみであった。

5．各 TC のリエズンからつぎの報告があった。
TC 1: 60050-581（コネクタ用語）は、1 年前に発行されたが Electropedia に未だ反映されていない。IEC CO の Mr. Rotti に再度要請する。
TC91: SC48B から提案しているウイスカー試験法との棲み分けが重要である。荷重試験については、TC 91 と SC 48B との共同作業も検討する必要あり。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／SC48B-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 10 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H21SC48B③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：河合　徹　　報告書作成者氏名：　佐藤賢一　（会社名）ヒロセ電機

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC48B (半角)
SC48B	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	コネクタ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2009 年 9 月 25 日 ～ 2009 年 9 月 25 日		
開　催　場　所	（国名）スウェーデン	（都市名）ストックホルム	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	B.Joynes	幹事国　アメリカ	
参　加　国及び 参　加　人　数	8 ヶ国、主な国名 ｱﾒﾘｶ、ﾄﾞｲﾂ、ｲｷﾞﾘｽ、ﾌﾗﾝｽ、ｲﾀﾘｱ、ｵﾗﾝﾀﾞ、ﾃﾞﾝﾏｰｸ、日本、参加人数（21）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 小島槇雄(MK ｱｿｼｴｲﾂ)、○佐藤賢一(ﾋﾛｾ電機)、河合徹(日本航空電子)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．SC48B 担当のテクニカルオフィサー Mr.Jacquemart が Mr. Rotti へ交代した。Mr.Rotti の自己紹介があったのち，AC/9/2009，AC/13/2009，AC/16/2008 などを基に、オンライントレーニングシステムの開始、IEC Directive の変更点(委員会段階のドキュメントに対するコメント期間が 各 TC 及び SC の承認の元に２，３及び 4 ヶ月の範囲内で決定できるようになった)などが説明された。

2．先の plenary meeting から今会議までの 1 年間で，新しく発行された規格が 38 件あること及び FDIS ステージの文書が 22 件あることが紹介された。また，2007 年 ～ 2009 年の各 NC の投票参加率が発表され，SC48B の各 NC は，共にすばらしい投票参加率を示していた。

3．SC48B 本会議に先立って開催された SC48B／WG3,WG5,WG6 の会議概況及び各 WG から SC48B セクレタリへの依頼事項が報告された。

WG3 では 61076-4-111, -4-114(Detail specification for two-part power connector modules for printed boards and backplanes･･･)を廃止するための作業を開始すること，IEC 61984(Safety requirements and tests)のメンテナンス開始を 2012 年から 2014 年に延期することなどが確認された。

WG5 から SC48B への依頼事項のうち，60512-17-5 Test 17e(Cable clamp resistance to dynamic cable pull) 及び 60512-25-8 Test 25h(Balance of symmetrical signals /PWI stage)を廃止するか否か，SC48B Plenary に出席している NC の意見が確認され，chief delegate 全員の賛成を以って，委員会で両規格の廃止が承認された。

4．liaison レポートのレビューより，SC23F と SC48B の共同作業で SC23F が審議している平形接続端子の規格 IEC 61210(この規格に SC48B の規格である IEC60760 の要求事項を盛り込んで規格を統合する)について，23F/188/FDIS が否決されたことが報告された。これに関して SC48B Plenary に出席していた他の Delegate から規格統合が否決された一因として同じ断面積を有するケーブルに対して，IEC Spec と AWG Spec で異なる要求事項と試験電流が存在して矛盾が生じることに問題があるとの情報が提供された。この件について Chairman は，SC23F に出席している SC48B liaison 委員に次回 plenary meeting にて状況をレポートするよう依頼した。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／SC48B-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 10 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H21SC48B④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：河合　徹　　報告書作成者氏名：　河合　徹　（会社名）日本航空電子工業株式会社

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	SC48B (半角)
SC48B/WG3	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
SC48B/WG5	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名　称(日本語)	コネクタ
SC48B/WG6	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2009 年 9 月 22 日 ～ 2009 年 9 月 24 日		
開　催　場　所	（国名）スウェーデン	（都市名）ストックホルム	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	G.Weking/D.Jooren/U.Blosfeld	幹事国　アメリカ	
参　加　国及び 参　加　人　数	8 ヶ国、主な国名 ｱﾒﾘｶ、ﾄﾞｲﾂ、ｲｷﾞﾘｽ、ﾌﾗﾝｽ、ｲﾀﾘｱ、ｵﾗﾝﾀﾞ、ﾃﾞﾝﾏｰｸ、日本、参加人数（21）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 小島槇雄(MK ｱｿｼｴｲﾂ)、佐藤賢一(ﾋﾛｾ電機)、○河合徹(日本航空電子)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1.WG3(コネクタ)

1) SC23F/MT1：SC48B 発行の IEC 60760 との統合規格 IEC 61210(平形接続端子)は、23F/188/FDIS として回覧された。しかし 7 月の投票にて否決された。この原因は、FDIS 文書中に電線サイズが IEC と AWG の両者が混在しており、しかも試験電流と要求事項が異なり規格の使用者が混乱をきたす状態であった。この規格の審議がストップしてしまったため SC48B としては当分 IEC 60760 を維持する必要が出てきた。

2) 丸形コネクタ：IEC 61076-2-101 Ed2.0(M12,screw-loking タイプ)に関して、イタリアからの寸法表記修正コメントを正誤表に盛り込むことが承認された。また、ドイツから次の Ed3.0 に補助的な電源適用タイプを追加するための提案が出され、現行の 48B/2046/MCR によって準備作業することが承認された。

3) 基板用コネクタ：PICMG MTCA R1.0 対応のドイツ新規コネクタ規格 IEC 61076-4-116 Ed1.0 は、48B/2081/RVN にて承認され、本年 12 月までに CD 文書を準備することとなった。

2.WG5(試験法)

1) IEC 60512-16-21 ： Ed1.0 Whisker test(日本提案):前回の Kessel-Lo(Belgium)会議での決議を受けて、ドイツコメントを全面的に受け入れ、修正した CD 文書を提出し、現在 48B/2082/CD として各国に回覧中である。コメント締切日は、2009 年 12 月 18 日である。

2) 各種規格審議：IEC 60512-9-3(電気的負荷を伴う機械的動作)、-17-5(ケーブルクランプ強度-動的ケーブル引っ張り)、-26-100 Am1 Ed1.0(IEC 60603-7 用高速伝送試験法)、-27-100(500MHz までの信号品位試験法)、-99-001(IEC 60603-7-XX 用電気負荷を伴う機械的動作)以上 5 アイテムの文書について審議。

3.WG6(接続技術)

1) IEC 60352-5：Press-in connections; 48B/2040/CD に対する各国のコメント 48B/2083/CC に基づき審議した。CD の主要な変更点は、Ed3.0 から表１(Nominal diameter, Dia. of plated through hole)の削除である。表１は、ユーザー側の要求事項であり日本から削除反対のコメントを提出した。会議に参加するメンバーは、メーカーのみで日本コメントのサポートが得られなかった。ロビー活動で提案もとのドイツ NC と交渉した結果、お互いにどこまで歩み寄れるか両者でメール交換をすることになった。

2) IEC 60352-8:Compression mount connections(日本提案)：48B/2052/CC に基づき修正した 48B/2062/CDV が各国に回覧中である。投票期限は 2010 年 1 月 29 日である。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／SC48D-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 10 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H21SC48D①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：末光　吾郎　　報告書作成者氏名：　杉浦　伸明　（会社名）愛知工科大学

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC48D (半角)
TC48 SC48D	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	電子機器の機械的構造
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	

開　催　期　日	2009 年 9 月 23 日 ～ 2009 年 9 月 25 日	
開　催　場　所	（国名）スウェーデン	（都市名）キスタ
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WEKING 氏（TC48）	幹事国　アメリカ
参　加　国及び 参　加　人　数	6 ヶ国、主な国名 スウェーデン、ドイツ、日本、アメリカ、参加人数（20）	
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 杉浦 伸明(愛知工科大学)、 島田 章夫(シュロフ)	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

１．TC48 会議　（次回会合は、シアトル　2010 年 10 月 14 日）
金融危機において TC48 としての貢献策を IEC 局長に送付した letter の説明　／・TC 48 strategic Bussiness Plan ；SC48B/SC48D/TC48 の位置付けに関する。コネクタに関して 48B と SC46A/46C/46F などで相互に関係する。環境試験法はリエゾンも必要との見方。

１－１．Review liaisons with other committees
TC70(IEC60529 で High　pressure water test で IPx9 の部分の見直し。／　TC91 (ウィスカに関する試験方法規定　IEC 60068-3-x 議論中・PCB と他の接続構造)／　TC40(動操作機の部品の実装)　／ TC111(電気電子製品及びシステムに対する環境条件　IEC 62474 の見直し)／　TC 113 Mr. Weking　ナノ技術１．SC48D（現議長は、来年 8 月に引退。日本から議長を選出予定）

２．SC48D

２－１．WG2 の報告；Status of project IEC 60917-2-4 ed.1；（CVD コメントを反映した修正ドキュメントを作成し、FDIS；2009 年末）　／　Status of project 61587-2 ed.1；（CD；2009 年末）

２－２．WG4 の報告：Status of project IEC 60297-3-106 ed.1；（フランス語訳をし FDIS；2009 年末）
Status of project IEC 60297-3-107；（2nd CD を作成回付。2010 年 3 月末）；PICMIG とのリエゾンは現在のところペンディングとなっている。コネクタが関係するため、48B/WG3 と 48D/WG4 とのリエゾンを発足する方向。

２－３．WG5 の報告
Status of project IEC/TS 62610-1 ed.1（最終ドキュメントの印刷と発行確認　2009 年 9 月済）／　Status of project IEC/TS 62610-2 ed 1（日本提案；2nd　CD は 2009 年末）／Status of project IEC/TS 62610-3 ed 1（コメントを反映したドキュメントを CO へ送付済み）

２－４．MT6 の報告：Wales 氏が Mazura 氏の代理
Status of project IEC 61969-1 ed 2；（2nd　CD を 2010 年 3 月回付）／　Status of project IEC 61969-2 ed 2；（2nd CD を 2010 年 3 月回付）／　Status of project IEC 61969-3 ed 2；（2nd CD を 2010 年 3 月回付）

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／SC48D-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 10 月 6 日

（報告者記載）予算番号：H21SC48D②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：末光　吾郎　　報告書作成者氏名：　末光　吾郎　（会社名）NEC

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC48D (半角)
SC48D　WG2	☐TC ☒SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	電子機器の機械的構造
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	

開　催　期　日	2009 年 9 月 23 日 ～ 2009 年 9 月 25 日	
開　催　場　所	（国名）スウェーデン	（都市名）キスタ
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WALLES 氏　/　WALT 氏	幹事国　ドイツ
参　加　国及び 参　加　人　数	6 ヶ国、主な国名 スウェーデン、英国、中国、アメリカ、ドイツ、日本、参加人数（13）	
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 島田　章夫(シュロフ)、 末光　吾郎(NEC)、 杉浦　伸明(愛知工科大学)	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

１．PJ 成果

１－１．Status of the project IEC 60917-2-4 Ed.1.0（日本提案）

Modular order for the development of mechanical structures for electronic equipment practices –Part 2-4: Sectional specification – Interface co-ordination dimensions for the 25 mm equipment practice: Adaptation dimensions for subracks applicable in cabinets in accordance with IEC 60297-3-100 (19 in)

・FDIS は、２００９年１１月に完了する。(現在、フランス語化中)

１－２．Inquiry on the maintenance of the IEC 61587-2；耐震規格に関する見直し提案：日本提案

Mechanical structures for electronic equipment-Tests for IEC 60917 and 60297-Part 2: Seismic tests for cabinets and racks

規格に関する背景を杉浦委員長から報告。

・主なコメントと方針

・SCOPE について、見直しが必要であることを合意。

・SINGLE AXIS（一軸加振）と　Tri-AXIS（三軸加振）について、定義することを方針決定。

・TEST requirement；振動試験台の性能まで提示することは、中止

・Assessment following the test についての見直しを行うこと

・今回、２つのドキュメントに分けることを決定

修正した文書は、2009/12/E に修正版を送った後、CENTRAL　Office に送付予定。FDIS 日程は別途。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／SC48D-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 10 月 6 日

（報告者記載）予算番号：H21SC48D③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：末光　吾郎　　報告書作成者氏名：　末光　吾郎　（会社名）NEC

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	SC48D (半角)
SC48D　WG4	☐TC ☒SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称(日本語)	電子機器の機械的構造
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2009 年 9 月 23 日 ～ 2009 年 9 月 25 日		
開　催　場　所	（国名）スウェーデン	（都市名）キスタ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WALLES 氏/　BHERENS 氏	幹事国　ドイツ	
参　加　国及び 参　加　人　数	6 ヶ国、主な国名 スウェーデン、英国、中国、アメリカ、ドイツ、日本、参加人数（13）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○島田　章夫(シュロフ)、 末光　吾郎(NEC)、 杉浦　伸明(愛知工科大学)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

１．PJ 成果

１－１．Status of project IEC 60297-3-106:（日本提案）

Adaptation dimensions for subracks and chassis applicable in metric cabinets in accordance with IEC 60917-2-1

・未決定事項は無いことを確認。CDV コメント対する修正版を 8／21 に SECRETARY に送付済みと報告。

・SECRETARY としては、フランス語訳に回し、2009/10 末に送付し、FDIS は 2009 年度中に発行。

１－２．Status of project IEC 60297-3-107:

Dimensions of subracks and plug-in units, micro - format

403e/RVN に対する議論を実施し、主なコメントは以下の通り

・寸法の違いは、EMC 用のコンタクト位置と HOT スワップイジェクタとの位置の違いによるものであり、内容確認して修正予定。

・コネクタとの関連寸法については、要求される機能によって寸法が違っているので追記。

・全体的に完成度が低く、寸法抜け等が多い。基本となる PICMG 規格自身の完成度も低いのではないかと各国で懸念している状況。

２．課題とアクション

本規格は、SC48D 単独では出来ない PKG の実装構造に関する規格であり、TC,SC48B との連携をどうするかをリエゾンの発足を含め、TC48 の会議で提案・議論することとなった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／SC48D-④（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 10 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H21SC48D④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：末光　吾郎　　報告書作成者氏名：末光　吾郎　（会社名）NEC

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	SC48D (半角)
SC48D　WG5	☐TC ☒SC ☐TA ☒WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称(日本語)	電子機器の機械的構造
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2009 年 9 月 23 日 ～ 2009 年 9 月 25 日		
開　催　場　所	（国名）スウェーデン	（都市名）キスタ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WALLES 氏/NICOLAI 氏	幹事国　ドイツ	
参　加　国及び 参　加　人　数	6 ヶ国、主な国名 スウェーデン、英国、中国、アメリカ、ドイツ、日本、参加人数（10）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 末光 吾郎(NEC) 、 杉浦 伸明(愛知工科大学)、 島田 章夫(シュロフ)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．PJ 成果

1－1．Status of project IEC/TS 62610-1 Ed.1.0:
Design guide: Interface dimensions and provisions for electrical advanced cooling systems (Peltier –effect)
発行を確認。

1－2．Status of project IEC/TS 62610-2 Ed.1.0:（日本提案）
Design guide: Method for determination of forced air-cooling structure
CD に対して、議論を実施。
（主な修正事項）
・同一ラック内に実装されるシステムにおける熱設計に関する日本提案を議論。シェルフにおける放熱方向に関し、規格としては、一方向を推奨するという方針でまとめていくことで合意。
・フィルタ及び騒音については informative として示す。関連規格として詳細を引用することはしない。
・TS であるため、それに対応した様式によって基本文を作成する。
2009 年末に 2nd　CD を作成する予定。

1－3．Status of project IEC 62610-3 Ed.1.0:
Design guide: Method for evaluation for advanced cooling systems (Peltier-effect)
FDIS 作業へ進んでおり、2010 年に発行される予定。。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／SC48D-⑤（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 10 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H21SC48D⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：末光　吾郎　　報告書作成者氏名：　末光　吾郎　（会社名）NEC

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC48D (半角)
SC48D　MT6	□TC ☒SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	電子機器の機械的構造
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2009 年 9 月 23 日 ～ 2009 年 9 月 25 日		
開　催　場　所	（国名）スウェーデン	（都市名）キスタ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WALLES 氏/ Mazura 氏	幹事国　ドイツ	
参　加　国及び 参　加　人　数	5 ヶ国、主な国名 スウェーデン、中国、アメリカ、ドイツ、日本、参加人数（9）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 末光 吾郎(NEC)、 杉浦 伸明(愛知工科大学)、 島田 章夫(シュロフ)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

１．PJ 進捗成果

以下の３つの PJ に関して、CD ごとにレビューを実施。2009 年末までに修正を行い、2010 年 3 月末に 2ndCD を発行する予定。

１－１　Status of project IEC 61969-1 Ed.2.0:Project leader: Mr. P. Mazura
Mechanical structures for electronic equipment-Outdoor enclosures-Part 1: Design guidelines
主なコメント
・フランス；IEC の文書に関し、ETSI の文書を引用するのは問題ないか？⇒セントラルオフィスに了解確認済み。
・イタリア；Stationary　Use が、ETSI300019-1-4 に記載されているか確認のこと。
・日本；　imission の表現を Sound Power level か Sound pressure level の表現にすること。

１－２　Status of project IEC 61969-2 Ed.2.0:
Mechanical structures for electronic equipment-Outdoor enclosures-Part 2:Coordination dimensions
主なコメント
・OPTIONAL 品に関する定義を明確にして寸法を決定する必要があり、表現についても見直しを行うこと。

１－３　Status of project IEC 61969-3 Ed.2.0:
Mechanical structures for electronic equipment-Outdoor enclosures- Part 3: Environmental requirements and tests, safety aspects
主なコメント
・日本コの積雪耐力に関する仕様について提示すること。あわせて、詳細な値を提案すること。
・DYNAMIC 試験（輸送振動試験）に関するコメントの修正案を提示する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC80-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 10 月 2 日

（報告者記載）整理番号：H21TC80①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内　崇雅　　報告書作成者氏名：　矢内　崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	TC80 (半角)
TC80	☒TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称(日本語)	舶用航海および無線通信装置とシステム
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	

開　催　期　日	2009 年 9 月 7 日 ～ 2009 年 9 月 8 日	
開　催　場　所	（国名）英国	（都市名）ロンドン
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr Kim Fisher	幹事国　UK
参　加　国及び 参　加　人　数	11 ヶ国、主な国名 英国、米国、ロシア、ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、韓国、日本、カナダ、デンマーク、参加人数（35）	
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○田北 順二 (日本無線)、○矢内 崇雅(沖電気)	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．背景　：IEC における TC80 として求められている活動状況に関する整合性の確認を行う。

2．目的　：隔年に開催される総会で、前回の総会にて設定した活動項目の進捗確認と次回の総会までの活動項目の設定と、リエゾン関係を結んでいる各機関との関係活動の確認を行う。又、IEC 事務局から要求されている SBP(Strategic Business Plan)の検討を行う。

3．成果　1) Agenda、前回会議議事録及び IEC 及び TC80 関連の報告と確認

・TC80 事務局が提案した Agenda 及び前回会議議事録には特にコメントは無かった。

・IEC 全体的な説明として、会員国：56、準会員国：19、新たに TC114、TC115、TC116 が設立された。又、TC80 のＰメンバーがオーストラリアの加盟により 21 カ国となった。

・IEC 事務局からの各 TC/SC に対する SBP の作成指示を受けて、TC80 事務局が作成した原案と米国からの改訂コメント文書を基に IEC 事務局への提出原案を作成した。

2) 完了した PJ 及び現在進行している PJ の確認

・前回の総会以降に完了した PJ 数は 13 件、現在進行している PJ は 6 件であることを確認し、特に進行中の PJ のうち、TC80　Secretary 主導で推進している BNWAS 機材に関してはプレゼン資料を用いての説明があった。

3) 今後予定するメンテナンス規格と新たに推進すべき項目

・Secretary から、今後 2 ヵ年以内にメンテナンスが必要と考えられる 13 規格が提示され、メンテナンスの必要性の確認とその完了時期について合意がされた。

・再確認を必要とする規格として 8 規格が提示され、メンテナンス時期等については合意がされた。

・廃棄すべき規格として 8 規格が提示され、廃棄を承認した。

4) 新項目関連の確認

・入力文書を含めて 3 件について、①船舶搭載用航海灯の IF は米国が NP ドラフトを取り纏める、②アラームコードとアラートは参考情報として扱う。③AIS として開発を計画している規格については TC80 としては認識。担当 WG の Convenor に状況の確認をすることになった。

5) リエゾンを結んでいる、IMO、ISO、IALA、RTCM、ITU-R 等からの関連するコメント及び意見交換を行った。

6) 次回の TC80 総会：2011 年 9 月か 10 月の予定で、場所はオーストラリアか米国での開催とする。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC93-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 10 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H21TC93②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：山本 一郎　報告書作成者氏名：古井 芳春　（会社名）(株)シルバコ・ジャパン

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC93 (半角)
TC93	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
WG1,WG2,WG3,	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名称(日本語)	デザイン・オートメーション
WG5,WG6,WG7,	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
JWG11	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	☐単独開催	☒同時開催

開催期日	2009 年 9 月 28 日 ～ 2009 年 9 月 30 日	
開催場所	（国名）日本	（都市名）京都
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	唐津 治夢 Chair/WG7 Con 小島 智 WG2 Con 高橋 満 WG6 Con	幹事国　米国
参加国及び参加人数	4 ヶ国、主な国名 日本、米国、韓国、中国、参加人数（25）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 唐津治夢（SRIインターナショナル）、神戸尚志（近畿大）、古井芳春(シルバコ･ジャパン)、小島智（NEC システムテクノロジー）、山本一郎(OKI セミコンダクタ)、浜口加寿美（パナソニック）、高橋満、大師堂清美（三菱電機）、山下寛己（E-SML）、柴田明一（JPCA）、金枝上敦（METI）、太田光保（パナソニック）	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

<背景>電子機器・部品の設計や試験の仕様記述、設計情報や部品 Lib 流通方式等、標準化ニーズは一層高まっている。
＜目的＞JEITA や JPCA 等の関連委員会との緊密な連携をもって、日本産業界の意向を反映した標準規格を実現する。
＜成果＞
全体：①各 WG を 2 並列で開催し、米国、中国メンバが WebEx で参加するなど密度の高い議論を行った。
②SPS に代わる SBP 作成のため討議した。国際幹事が WG 案を集約したドラフトを各国がレビューし完成する。
③JNC の古井、神戸委員長が、それぞれ WG1, WG5 ココンビナに就任することが承認された。
WG1：①JNC 作成の BVDL(設計言語鳥瞰図)を紹介。WG2 と連携して brush-up し言語 harmonization に利用する。
②メカトロニクス設計言語について意見交換した。コンビナから FinSimMath の status update が行われた。
WG2：①Dual logo である IEEE 規格と IEC 規格の関係を整理体系化した。今後のメンテナンス計画を作成した。
②JNC から BDVL(設計言語鳥瞰図)を紹介し議論した。設計言語標準化のロードマップとして活用する。
WG3：①XML を利用した製品材料や製造に関する情報交換方法の標準化を議論した。
②WG6 と連動し 93/283/NP(製品技術属性情報の交換方式標準)の早期規格化を目指す。
WG5：①JNC から標準言語の機能や意味を統一的に表現するモデル(semantics model)標準化を提案し賛同を得た。
②コンフォマンステストのためのユースケース作成を開始した。
WG6：①93/283/NP(製品技術属性情報の交換方式標準)の早期規格化に注力。WD 作成以降のマイルストンを立案した。
②継続案件の Translator(IPC 2581 to STEP AP210)は次回 WG6 会議で米国がデモを実施する。
WG7：①Dual logo である IEEE SCC20 規格の標準化動向が報告された。
②今後、P1671 ATML(Automatic Test Markup Language)の進展に注目する。
JWG11：①コンビナから JWG11 活動の詳細報告と、Design Manufacturing Standard 提案が行われた。
②TC91/WG12 での 3D data library の取り組みが報告された。JWG11 を通じて TC93 と連携を図る。
＜課題＞P メンバー国の更なる増加に向けたアクションが必要。JNC は CENELEC 加盟国への参加呼びかけ、アジア諸国にアプローチする。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

㈳電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC93-②（事務局記入）　　様式 9
国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日： 2009 年 10 月 8 日
予算番号:H21TC93②

国際会議日本開催
経費収支報告書

1. 組　　織：　番　号　　TC93
　　名　称（日本語）　デザイン・オートメーション
2. 会　　議　名：　IEC/TC93 国際会議（☐単独開催　☒同時開催）
　　☒TC　☐SC　☐TA　☒WG　☐PT　☐その他
3. 開　催　期　日：　2009 年 9 月 28 日 ～ 2009 年 9 月 30 日
4. 開　催　場　所：　京都市、京都リサーチパーク

単位:円

収 入 の 部		支 出 の 部	
科　　目	金　額	科　　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	269,744 円	会議室使用料金	177,187 円
JEITA EDA 技術専門委員会	269,744 円	会議付属設備	32,340 円
日本規格協会	177,187 円	飲物代	131,638 円
	円	昼食代	195,510 円
	円	懇親会費	180,000 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	716,675 円	合計（b）	716,675 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー12 人＋外国人 13 人）］×会議開催日数 3 日×1.5 万円＝112.5 万 円

補助請求金額　269,744 円
［補助基準･運用規定の補助率（50 %）。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2009 年 10 月 8 日
申請責任者：　古井 芳春

※本報告書は、**(様式4)「国際会議報告書」**に添付して下さい。

（TSC-06 様式 2007.9）

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC100-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 9 月 25 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100⑦

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄（ソニー）　報告書作成者氏名：平川 秀治　（会社名）（株）東芝

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	TC 100 (半角)
TC 100/JTC 1 Coordination	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称(日本語)	AV&マルチメディア機器とシステム
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	

開催期日	2009 年 9 月 1 日 ～ 2009 年 9 月 1 日	
開催場所	（国名）アメリカ合衆国	（都市名）ゲイザースバーグ(Gaithersburg)/MD
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mark Hyman	幹事国　日本
参加国及び参加人数	2ヶ国、主な国名 日本、米国、参加人数（ 5 人 ）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○平川秀治(東芝、IEC/TC 100 国際幹事)、○江崎正（SONY、IEC/TC 100 国際副幹事）	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

ＩＣ 100 と ISO/IEC JTC 1 の議長、国際幹事間での合意により、三つのレイヤーで調整を行うことになった。TC レベルでは、会合を定例化するように努力している。今年は、既に 7 月 30 日に電話会議を開催、今回の面談会議、10 月中旬は議長、副議長、TAM、TS が集まる TC 100/JTC 1 Joint Management Meeting も予定されている。

9 月 1 日に米国メリーランド州ゲイザースバーグで JTC 1 議長、国際幹事と、TC 100 議長、国際幹事が会合を開催した。7 月 30 日の電話会議で議題の大枠は決まり、今回は詳細については議論を行った。テルアビブ合同会合では、最初にそれぞれの議長からメンバーを紹介し前半は 45 分程度で終了する。その後、五つの協調が可能と思われるテーマについて各グループから代表がプレゼン、その後、Q&A で一テーマ 15 分と、後半が 1 時間 15 分となる。最後に議長、国際幹事がとりまとめのパネル討論を行い、全体で 2 時間半の会議にまとめることになった。

ワシントン特別市郊外であったため、CEA に立ち寄り、2010 年の CEA の TC 100 関連運営予算などの情報交換も行った。また、TC 100 議長の任期が 2010 年 10 月末までのため、後任の候補者についても情報交換ができた。

なお、CEA では Scope 変更の調整を行っている TC 108 国際幹事と面談でき非常に有益であった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／TC100TA6-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 10 月 7 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100TA6①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井　幹雄　　報告書作成者氏名：　大高　秀樹　（会社名）ソニー（株）

出席会議名(半角)	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA6 (半角)
TC100/TA6	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	AV ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ業務用情報ストレージ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2009 年 10 月 5 日 ～ 2009 年 10 月 5 日		
開　催　場　所	（国名）USA	（都市名）Los Anels	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	大高　秀樹	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	2 ヶ国、主な国名 日本、US、参加人数（4）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○大高　秀樹（パナソニック（株））、○向井　幹雄（ソニー（株））		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. SMPTE - IEC/TC100 Liaison を、大高 TAM が担当することで、SMPTE としても歓迎の意向が示された。
2.平川 TC100 幹事が次回の SMPTE 会合で、TC100 の紹介をする(20-30 分)件、了解された。次回 SMPTE のアジェンダにのせることになった。
3.Metadata base の件、SMPTE の最新のデータベースをレファレンスしてほしいとのこと。IEC として、検討する。
4.Lyp Sync、SMPTE としても、興味があることを確認した。
5.Time Code の改定、IEC で改定の検討を進める。
6. 3D について、SMPTE から IEC へ Liaison の希望の件、SMPTE としてもこれから正式な検討グループが立ち上がるので、そこで確認したい。
7. Peter さんが、SMPTE として、SMPTE 標準の Sales は SMPTE の収入として重要。IEC で標準化されると SMPTE の収入が減るのではないかと懸念を示された。この件は、IEC/TC100 は SMPTE のすべての標準を自動的に IEC 標準にするのではない。また、IEC として SMPTE 標準を直接 Normative 標準にするので、かえって SMPTE の Sales にもプラスになる旨、説明して了解された。
8. Category A,B, D Liaison について、説明し、現行の Category D liaison で、がベストである旨、了解された。
9. Normative Reference
SMPTE 標準が、Normative 標準として Reference 可能である旨、説明し了解された。
10. WTO を IEC は、少なくともクリアでき、SMPTE と IEC との良好な協力関係は双方にとってもメリットが大きいことを説明し、理解が得られた
11. 基本的に双方の協力関係について理解が得られ、次ステップは具体的にすすめ、適宜必要に応じて、情報交換する。ということで、双方の認識が一致した。これらを踏まえて、春ころまでに（可能であれば、CES あたり？）、次回の打ち合わせを持ちたいということが SMPTE から要請があった。
12. Wendy さんが、正式な Liaison レスポンスの返事をくれるとのこと。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：4-3／CISPR-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 10 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H21CISPR③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：堀　和行　　報告書作成者氏名：　千代島　敏夫　（会社名）㈱ PFU

出席会議名(半角)	区　分	組織番号(TC/SC/TA)	CISRP SC-I (半角)
CISRP SC-I	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称(日本語)	マルチメディア機器等に関する EMC
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開　催　期　日	2009 年 9 月 21 日 ～ 2009 年 9 月 23 日		
開　催　場　所	（国名）フランス	（都市名）リヨン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Martin Wright	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	26 ヶ国、主な国名 英国、フランス、イタリア、デンマーク、ドイツ、米国、参加人数（85）		
日　本　人 出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ 雨宮 不二雄(NTT アドバンストテクノロジ(株))、秋山 佳春／NTT 環境エネルギー研究所、長部 邦廣／㈱ VLAC、羽田 隆晴(㈶日本品質保証機構)、山口 高／VCCI、○堀 和行／ソニー㈱、○千代島 敏夫／㈱ PFU		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

CISPR SC I では、マルチメディア機器の EMC 規格を担当している。マルチメディアエミッション規格 CISPR32 ついて、2009 年 3 月に回付された CISPR/I/295/CD には、約 700 件の各国コメントが寄せられた。今回の会議では、次のステージ(CDV)に進めることに好意的な意見が多かった。10 月の米国ヒルズボロで開催される WG2 で各国コメントが審議され、CDV 化について議論される。

高速電力線通信(PLC)の CD について、現行の CISPR22 と同等の周波数スペクトラムの防護ができているかどうかについて議論された。10 カ国は同等、10 カ国は否定、4 カ国棄権で、現行 CD は、同等と確認することはできないとの結論となった。来年 5 年で期限がきれる PLC プロジェクトの今後については、次のアンケートの結果で決定することとなった。

Q1. CISPR22 MCR(メンテナンスサイクルレポート)を発行して継続する　Q2. CDV 化する

Q1,Q2 とも no の場合は、STAGE 0 になり、活動停止することとなる。

同時開催の WG1（TV 放送受信機の EMC 規格のメンテナンス担当）から

ドイツのアマチュア無線家からの苦情で、プラズマテレビから 30MHz 以下の妨害電波がでていることが報告されている。日本・ドイツ・英国の試験所で、同じプラズマテレビの磁界 150kHz-30MHz を測定して、同じ結果が得られた。実際のアマチュア無線への妨害では、距離は 10-30m あるが、現在適用できる測定法／許容値としては、CISPR11 の IH 調理器の要求で、3m で測定する許容値がある。短期間での規格化としてこれを採用することが提案された。

長期的には、測定方法の検討、測定場所の評価および許容値の決定を、SCA と SCH に委託することになる。

同時開催の WG3（情報技術装置の EMC 規格のメンテナンス担当）から

情報技術装置のイミュニティ規格である CISPR24 Ed.2.0 の CDV のコメントが審議された。1 票差で可決されているため、大きな技術的変更はできないとし、技術的内容に間違いがある場合をのぞき、技術的変更はなしとなった。一部の技術的修正案については、DC 文書を発行して各国の意見を聞くこととなった。その後、FDIS 発行予定。

日本は、提案していた内容が採用されなかったことおよびいくつかの項目が充分議論されていないとして反対票を投じた。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会
国際標準化対応支援委員会　御中

運営委員会・資料番号：4-3／SC31-①（事務局記入）

提出日：2009 年 10 月 1 日

（報告者記載）予算番号：H21SC31⑥

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：本田邦夫　報告書作成者氏名：高井弘光　（会社名）デンソーウェーブ

出席会議名(半角)	区分	組織番号(TC/SC/TA)	JTC1/SC31 (半角)
SC31/WG1	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称(日本語)	自動認識及びデータ取得技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2009 年 9 月 14 日 ～ 2009 年 9 月 15 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）トゥールーズ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. Sprague Ackley	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	4 ヶ国、主な国名 米、英、独、参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 高井弘光（デンソーウェーブ）、武富理恵（リコー）、佐藤光昭（JAISA）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．目的：各プロジェクトの投票後のバロットレゾリューション会議（BRM）で、日本が提出していたコメントを適切に反映させるための意見具申を行う。特に、日本提案の「ISO/IEC 29133 リライタブルハイブリッドメディアの品質評価仕様」については、FDIS 投票に確実に進めるため、本会議で、コメント対応内容に対する出席者の合意を得る。

2．成果：

・ISO/IEC 29133 Rewritable Hybrid Media のコメント対応内容は、討議の後、出席者の合意を得た。正式に FDIS 投票へと進めることが決議に記載された。

・その他の投票案件も、一部を除き、日本提案は受理され、次の段階に進むことが決議された。

・ISO/IEC 24724 RSS (GS1 DataBar) は、誤読問題への対応のための仕様変更を含む、技術的変更が必要なため、再度 FCD（Final Committee Draft）を実施することになった。

3．今後の課題等：

・ISO/IEC 18004　QR コードは、2010 年に reaffirmation プロセスを開始する。その際、TC122 から出された名称変更について、事務局に確認しておくことが求められた。

・TR 24720　ダイレクトパーツマーキングの指針（日本提案のテクニカルレポート）は、2010 年に reaffirmation プロセスを開始。もう一人のプロジェクトエディタ、Mrs. Harmon にも確認することが求められた。

※　上記 2 点は、高井がプロジェクトエディタのため、次回までに方針を決め、推進する必要あり。

・ISO/IEC 24724 Reduced Space Symbology (RSS) bar code symbology specification は、7 種類のシンボルの分類方法が、わかりにくいという指摘が各国からあり、3 つのグループに分けることが合意された。

・次回以降の開催予定で、10 年 4 月 12 日の週：ボルダー（米国）の次は、10 年 9 月 28-30 日の日程で、日本での開催が求められたため、開催地を含めて検討する必要がある。

※　当初 10 年 1 月に予定されていた会議は、日程調整がつかず、電話会議の案も出たが最終的に、4 月にフィジカル会議を実施するということになった。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122